

# 令和5年度 学校教育努力点について

## 1 テーマ

「子どもたち一人ひとりが、人と豊かにつながり、  
できる喜び・楽しさを実感することができる学びづくり」  
一学んだことを生かして仲間と考え、振り返る活動を通してー

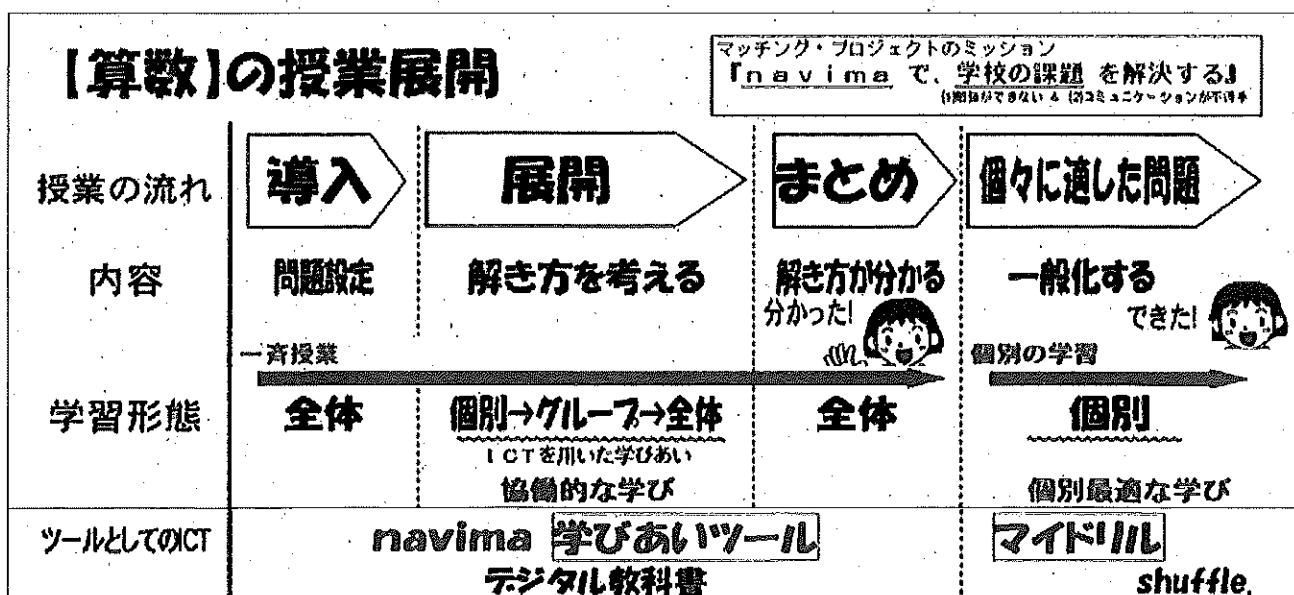
## 2 ねらい

本校では、令和3年度からマッチング・プロジェクトを通して算数科の授業改善に取り組み、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ってきた。授業展開の改善に重点をおき、一斉授業においてnavima（学びあいツール）を活用した学びあいから、navima（マイドリル）を活用した個別最適な学びへと展開させる実践に取り組んできた。（下図参照）学習問題の解き方が「分かった」から、他の問題も「できた」へと発展させることをねらいとした実践の結果、毎時間の子どもの理解度は高まり、マイドリルの取組状況も向上した。

しかし、子どもが「分かった」「できた」と実感している一方で、単元末の知識・技能を確認する場面では、あまり成果が見られず、知識・技能の定着には至らなかった。これは、毎時間の「分かった」「できた」が、単元全体に対する「分かった」「できた」につながっていないことが要因だと考える。また、子どもを学習者として自立させるための工夫が不足していたことも課題として挙げられている。

そこで今年度は、昨年度までの授業展開を継続した上で、単元途中または単元末に、応用問題を取り組ませる。この場面では、解き方や用いる公式についてペアやグループの仲間と考えさせたり、確認させたりする協働的な学びを取り入れる。仲間との対話を通じて問題解決のために必要な考え方方に気付かせることで、自立した学習者、つまり自力で解決に向かうことができる学習者へと育っていくことを期待する。更に、どのように解決したかを振り返らせる場面を設ける。ここでの振り返りとは、毎時間に学級全体で行うまとめを生かして、子ども一人ひとりが自身の考え方を整理するためのものとする。振り返りをすることで、その単元で何を学習したのかが明確になり、理解が深まる。この理解の深まりが、基礎的・基本的な学習内容の定着につながると考える。

以上のように、仲間と応用問題に取り組ませ、どのように解決したかを振り返らせることを通して、できる喜び・楽しさを実感することができる学びづくりを目指していく。



【毎時間の授業展開】

### 3 実践方法

#### (1) 授業実践について

ア 年1回の公開授業を行う。【全学年】

※ すすめるプロジェクトに伴う公開授業を含む。

※ 略案を書き、授業実践を行う。各部会で事前・事後の検討会を行う。

※ 指導案は各部会で検討した後、校内決裁を受ける。

イ 公開授業の有無にかかわらず、日常的に実践を行う。

※ 略案の作成は不要。

※ 中間まとめ報告会（前期）、最終まとめ報告会（後期）で実践の様子を報告する。

※ 中間まとめ報告、最終まとめ報告は担任、副担任のそれぞれが作成する。

#### (2) 報告会について

ア 中間まとめ報告会を行う。（10／23）

6月頃に報告書についてお示しします。

イ 最終まとめ報告会を行う。（2／26）

※ どちらの報告会の場合も、授業実践をまとめ、各部会で検討した後に校内決裁を受け、

1週間前までに teachers→R5年度ファイル→努力点に PDF で保存する。

### 4 研究計画

月	推進委員会	全体会	部会
4	研究推進計画の立案（4/11）	基本的な考え方の確認（4/17）	児童実態把握
5	各部会の実践方法の検討		児童実態把握 実践方法の検討
6			授業実践①（事後検討会）
7			授業実践②③（事後検討会）
8			
9			
10	中間報告会に向けて		中間まとめ報告会に向けて
11		中間まとめ報告会（10／23）	
12			授業実践④⑤（事後検討会）
1			授業実践⑥（事後検討会）
2	最終報告会に向けて		最終まとめ報告会に向けて
3	次年度の方向性検討	最終まとめ報告会（2／26） 次年度の方向性	

### 5 研究組織

